



3月25日号  
令和2年度最終号

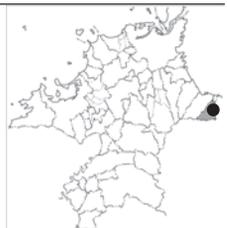
編集・発行  
九州歴史資料館  
電話 0942-75-9575

# 築上郡上毛町下唐原東屋敷遺跡にて 発掘作業に全集中の呼吸！！



1号土器溜まりから見つかった弥生土器群

## 山国川河川改修に先立つ発掘調査の成果！！



令和元年  
度から令和  
2年度にか  
けて当館が  
行った、築  
上郡上毛町に所在する下唐原

東屋敷遺跡の発掘調査が終了した。本調査は、山国川の河川改修工事に先立って行われたものである。

下唐原東屋敷遺跡では、現在の耕作土の直下から弥生時代中期頃から古墳時代にかけての集落跡が見つかり、数百年の間、過去の人々によって利用された場所であったということが判明した。

弥生時代の遺構として、竪穴住居、土坑、ピット、土器溜まり、小児甕棺墓、円形周溝状遺構などが見つかった。

1号小児甕棺墓  
(子どもを埋葬した棺)



土坑や土器溜まりからは、多量に土器が出土し、その大半が破片の状態だったが、中には原形を留めたままのものもあった。



カマドが付設された古墳時代の竪穴住居  
土坑や土器溜まりからは、多量に土器が出土し、その大半が破片の状態だったが、中には原形を留めたままのものもあった。

一方、古墳時代以降の遺構としては、多数の竪穴住居や土坑、溝などが見つかった。竪穴住居の多くにはカマドが付設されていた。古墳時代の生活の実態をあらわす遺跡として重要であると言える。

カマドをもつ竪穴住居の中には奇妙なものがあつた。カマドの中でも焚き口に近い壁の部分に瓦を埋め込んだもの



瓦を転用したカマド  
(写真奥に煙道部がのびる)

後の詳細な報告が期待される。

調査担当者によると、遺構の輪郭が非常に見えにくく、毎日悩みに悩み、夜に駆けたいこともあつたそう。また、新型コロナウイルス禍での発掘調査だったため、三密を避けながら、作業員さんとともに全集中の呼吸で調査したそう。 (梶佐古記者)